



資格ガイド

無料RTOS



無料RTOS: 資格ガイド

Copyright © 2024 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは、Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は、Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

FreeRTOS 用の AWS デバイス認定プログラム	1
FreeRTOS とは	1
FreeRTOS 用の AWS デバイス認定プログラムとは	1
資格に関するよくある質問	1
認定プロジェクトの例	5
最新の変更点	5
ボードを資格認定する	9
前提条件	9
レコメンデーション	9
認定ステップ	10
AWS IoT Device Tester (IDT) を使用して移植された無料RTOSライブラリを検証する	10
提出の準備	12
認定の提出	13
入門ガイド	13
「入門ガイド」テンプレート	14
マニフェストファイルの手順	16
manifest.yml	19
ドキュメント履歴	20
.....	xxviii

FreeRTOS 用の AWS デバイス認定プログラム

FreeRTOS とは

世界をリードするチップ企業との 20 年間にわたる提携によって開発され、現在 170 秒ごとにダウンロードされている FreeRTOS は、マイクロコントローラーおよび小型マイクロプロセッサ向けの市場をリードするリアルタイムオペレーティングシステム (RTOS) です。MIT オープンソースライセンスで無料配布されている FreeRTOS には、すべての業種での使用に適したカーネルと増え続けるライブラリのセットが含まれています。FreeRTOS は、信頼性と使いやすさを重視して構築されています。FreeRTOS には、接続、セキュリティ、および無線通信 (OTA) に関する更新用のライブラリが含まれています。また、[認定ボード](#)で FreeRTOS の機能を実演するデモアプリケーションも含まれています。

詳細については、FreeRTOS.org にアクセスしてください。

FreeRTOS 用の AWS デバイス認定プログラムとは

FreeRTOS 用の [AWS デバイス認定プログラム](#)は、特定のマイクロコントローラーベースの開発ボード上で動作する FreeRTOS AWS IoT ライブラリの統合が、AWS の公開している AWS IoT Core 接続に関するベストプラクティスと互換性があり、認定プログラムで指定された[テスト](#)に合格するのに十分堅牢であることを検証します。

このプログラムで認定されたボードは、[AWS Partner Device Catalog](#) に掲載されています。

ボードの FreeRTOS 資格認定については、「[ボードを資格認定する](#)」を参照してください。

資格に関するよくある質問

Q: クラウド接続が組み込まれていないマイクロコントローラー (MCU) を搭載したボードでも認定できますか？

はい。ただし、MCU を使用するボードは、クラウドへの直接接続または間接接続 (例えば、別の通信モジュールを使用) を備えている必要があります。

Q: どのバージョンの FreeRTOS が認定対象になりますか？

最新の FreeRTOS 長期サポート (LTS) バージョン (推奨、[GitHub](#)) か、公式にリリースされている最新の FreeRTOS ライブラリ ([GitHub](#)) バージョンを使用してください。

Q: 認定に必須のテストにはどのようなものがありますか？

[移植フローチャート](#)には、ボードの認定に必要なソフトウェアライブラリとテストが記載されています。

Q: 認定のためにライブラリのバージョンを組み合わせることはできますか？例えば、LTS パッケージの coreMQTT と、最新の FreeRTOS リリースの FreeRTOS-Plus-TCP バージョンを使用できますか？

いいえ。特定のバージョンの組み合わせでライブラリの相互運用性をテストし、それらの組み合わせをバージョンタグ付きのバンドル (例えば、[FreeRTOS 202210.xx LTS](#)、[FreeRTOS 202112.00](#)) としてリリースします。これらの組み合わせに関する情報は、対応するリポジトリの manifest.yml ファイル (例えば、[FreeRTOS 202210.xx LTS マニフェストファイル](#)) にあります。

Q: 自分のボードを以前の LTS バージョンで認定することはできますか？

新しい認定には、最新の LTS リリース (最新のパッチを含む) を使用することをお勧めします。以前の LTS リリースで既に認定を取得中の場合は、引き続き地域の APN 担当者にご相談ください。

Q: 以前の LTS バージョンで自分のボードを認定することはできますか？

いいえ、新しい認定には最新の LTS リリースを使用することをお勧めします。以前の LTS リリースで既に認定を取得中の場合は、引き続き地域の APN 担当者にご相談ください。

Q: 既存の認定ボードはどうなりますか？

既存の認定ボードは、引き続き AWS Partner Device Catalog に掲載されます。必要に応じて、既存の認定に必要な変更については直接お知らせします。認定ボードを最新の FreeRTOS ライブラリまたは FreeRTOS LTS バージョンにアップグレードする場合は、新しい[テスト](#)と照合して再検証する必要があります。

Q: セキュアソケットや Wi-Fi 管理を含め、FreeRTOS の抽象化レイヤーを使用してテストする必要がありますか？

いいえ。「FreeRTOS 移植ガイド」の[移植フローチャート](#)で、必要なソフトウェアライブラリとテストを確認してください。

Q: 以前のバージョンを移植しているときに新しい FreeRTOS バージョンがリリースされた場合、最初からやり直す必要がありますか？

いいえ。以前のバージョンを使用して、引き続き認定を受けることができます。ただし、移植を開始する時点で入手可能な最新の FreeRTOS または FreeRTOS LTS バージョンを使用することを強くお勧めします。

Q: 現在使っているボードは、公式の FreeRTOS リリースに含まれていない、独自の変更を加えたカーネルアーキテクチャを使用しています。それでも認定を受けることはできますか？

いいえ、認定を受けることができるのは [GitHub](#) から入手できる公式のカーネルポートだけです。サポートされていないアーキテクチャや既存のカーネルポートに追加すべき機能がある場合は、「[Contributing Guidelines](#)」に従って [GitHub](#) にプルリクエストを送信できます。プルリクエストがレビューされてマージされると、正式なものとなり、そのカーネルポートで認定を受けることができるようになります。詳細については、地域の APN 担当者にお問い合わせください。

Q: 私のボードは TCP/IP をハードウェアにオフロードしません。FreeRTOS の資格認定に特定の TCP/IP スタックは必要ですか。

ボードにオンチップ TCP/IP 機能がない場合は、FreeRTOS+TCP TCP/IP スタックまたは lwIP TCP/IP スタックの最新バージョンを使用することができます。詳細については、FreeRTOS 移植ガイドの [TCP/IP スタックの移植](#) を参照してください。

Q: TLS スタックが通信チップにオフロードされている場合でも、PKCS11 を実装する必要がありますか？

いいえ、PKCS11 を実装またはテストする必要はありません。

Q: 現在使っているデバイスで使用されているプロトコルは、HTTP と MQTT のいずれか 1 つのみです。また、通信チャネルは Wi-Fi、イーサネット、BLE が利用できますが、そのうち 1 つのチャネルしか使用されていません。すべての OTA 関連の IDT テストが 1 つのプロトコル通信チャネルの組み合わせだけを使用して合格した場合、デバイスは認定されますか？

はい。ただし、可能であれば、デバイス上で他の組み合わせの認定も受けることをお勧めします。このようにして、より多くのお客様のユースケースに対するサポートを提供できます。

Q: 認定要件に従って、FreeRTOS 移植を独自のリポジトリでホストします。サポート用のフォルダとデモに関して、何をリポジトリに含めるべきですか。

移植に使用するファイルとフォルダをリポジトリからダウンロードするお客様が、すぐにそれを利用して移植を実行できるよう、必要なものはすべてホストします。FreeRTOS カーネル、FreeRTOS ライブラリ、FreeRTOS テスト、サードパーティライブラリ、およびベンダー固有ファイルを、ドキュメント用の docs フォルダと demo フォルダと共にサブモジュール化できます。coreMQTT エージェントデモがサポートされている必要があります。その他のデモは任意です。

Q: 使用しているデバイスは、セルラー接続のみに対応しています。それでも認定を受けることはできますか？

はい。セルラーインターフェイスライブラリは、TCP オフロードセルラー抽象化レイヤーの AT コマンドをサポートしています。公式のものは [GitHub](#) から入手できます。詳細については、「FreeRTOS 移植ガイド」の「[セルラーインターフェイスライブラリの移植](#)」を参照してください。

Q: 移植されたコードや認定されたコードはどこでホストされますか？

移植されたコードは、アプリケーションや顧客のニーズに応じて、どのリポジトリでもホストできます。リポジトリリンクは一般に公開され、AWS Partner Device Catalog の製品ページにリンクされている必要があります。

Q: FreeRTOS の認定では、OTA テストに合格する必要がありますか？

はい。お客様は、導入した AWS IoT デバイスの機能をリモートで更新できるようにしたいと考えています。そのため、すべての新しい認定では、OTA テストに合格する必要があります。

Q: 認定はどのくらい有効ですか？

ボードまたはソフトウェアコンポーネント (例えば、FreeRTOS ライブラリ、ドライバー、サードパーティライブラリ) が製造中止になっていない限り、既存の FreeRTOS 認定は有効です。FreeRTOS LTS ベースの認定は、対応する LTS 期間が終了すると無効になります。

Q: AWS は、いつ認定を更新することを推奨していますか？

お客様が最新のセキュリティパッチ、有効な LTS ライブラリ、または新しい FreeRTOS 機能を利用できるように、定期的に最新の FreeRTOS LTS または FreeRTOS バージョンを再認定することをお勧めします。

Q: AWS IoT Device Tester は、FreeRTOS 実装のテストには使用できても、ボードの認定には使用できないのですか？

はい、FreeRTOS 実装をテストするには [AWS IoT Device Advisor](#) を使用することをお勧めします。

Q: AWS IoT Device Tester を使用するには料金を支払う必要がありますか？

いいえ、使用は無料です。ただし、AWS サービス (MQTT メッセージ、接続、OTA 実行など) の使用により、料金が発生する場合があります。

このページや FreeRTOS 資格ガイドの残りの部分で回答されていない質問がある場合は、AWS 担当者または [FreeRTOS エンジニアリングチーム](#) にお問い合わせください。

認定プロジェクトの例

以下は、FreeRTOS 特集 IoT 統合の例です。

[NXP RT1060 ハードウェアプラットフォームをターゲットにしています。](#)

最新の変更点

次の表は、前回リリース以降に FreeRTOS 用の AWS デバイス認定プログラムに対して行われた重要な変更点をまとめたものです。

テストケース

変更	説明
ソースコードの要件を更新	<ul style="list-style-type: none"> 現在、FreeRTOS 統合テストは、FreeRTOS-Libraries-Integration-Tests という別のリポジトリにあります。これらのテストは認定プロジェクトに追加する必要があります。 amazon-freertos リポジトリは、認定には使用されません。また、認定に必須でもありません。 manifest.yml ファイルにフィールドパスを追加すれば、どのソースコードのディレクトリ構造でも認定に使用できます。 OTA 機能をサポートする MQTT pub/sub デモが認定に必要になりました。このデモは、Device Advisor テストを使用して検証する必要があります。
認定アーティファクトを更新	<ul style="list-style-type: none"> 認定には、AWS IoT Device Tester と AWS IoT Device Advisor の両方のテストレポートが必要です。 セキュアブート用の脅威モデリングドキュメントが必要です。このドキュメントは、APN パートナーセントラルにデバイスを提出する

変更	説明
	際に、サポートアセットとしてアップロードする必要があります。

変更	説明
統合テストを更新	<ul style="list-style-type: none">認定には、OTA テスト (OTACore、OTADataplaneMQTT) が必要になりました。新しいトランスポートインターフェイステスト (FullTransportInterfacePlainText および FullTransportInterfaceTLS) が追加されました。認定には FullTransportInterfaceTLS が 必要です。ただし、FullTransportInterfacePlainText は TLS スタックが外部接続モジュールにオフロードされている場合は不要です。FullMQTT、FullBLE、CmakeBuild System、FullSecureSockets、FullTLS、および FullWiFi テストは削除されました。FreeRTOSIntegrity チェックは引き続き実行されますが、ソースコードで使用されているライブラリがそのバージョンの FreeRTOS の正しい git コミットを使用していることが確認されます。FreeRTOSVersion チェックは引き続き実行されますが、使用されている FreeRTOS バージョンが FreeRTOS LTS、FreeRTOS メインライン、および AWS IoT Device Tester (IDT) バージョンと互換性があることが確認されます。認定に使用した FreeRTOS のバージョンは、IDT の userdata.json ファイルに記載されている必要があります。TLS スタックが外部接続モジュールにオフロードされている場合、FullPKCS11 テストは不要です。FullPKCS11_ECC および FullPKCS11_RSA テストは、対応する FullPKCS11_Import 、FullPKCS1

変更	説明
	<p>1_Onboard 、FullPKCS11_PreProvisioned テストに置き換えられます。</p> <ul style="list-style-type: none">• FullMQTT テストは、Device Advisor テストに置き換えられます。「AWS IoT Device Tester (IDT) を使用して移植された無料RTOSライブラリを検証する」セクションのステップ 4 を参照してください。

以前の変更点については、「FreeRTOS 移植ガイド」の「[FreeRTOS バージョン履歴](#)」を参照してください。

ボードを資格認定する

前提条件

ハードウェア要件:

無料RTOS AWS IoT ライブラリを実行する MCUベースの開発ボードには、次のものがが必要です。

- イーサネット、Wi-Fi、またはセルラー接続機能

ソフトウェア要件:

無料RTOS [移植ガイドの移植フローチャート](#)は、特定の MCUベースの開発ボードに必要な無料RTOS AWS IoT ライブラリを特定します。最小のサブセットは以下のとおりです。

- 無料RTOSカーネル
- コアMQTT
- AWS IoT Over-The-Air 更新 (OTA)

テスト要件:

- for FreeRTOS を使用して、Free ライブラリAPIsに必要なハードウェアプラットフォーム固有の実装を、定義された[テスト](#) GitHub リポジトリと照合します AWS IoT Device Tester RTOS。「[AWS IoT Device Tester \(IDT\) を使用して移植された無料RTOSライブラリを検証する](#)」を参照してください。
- Device Advisor AWS IoT Core を使用してとの相互運用性を検証します。「[AWS IoT Device Tester \(IDT\) を使用して移植された無料RTOSライブラリを検証する](#)」のステップ 4 を参照してください。

レコメンデーション

セキュリティを強化するために、以下を推奨します。

- オフラインまたは一時的な侵害が永続的に発生するのを防ぐには、[セキュアエレメント](#)や Secure Enclave などの物理的な攻撃に耐えるハードウェアのルートオブトラストにシークレットと認証情報を保存してください。

- 不正なデータ開示につながる可能性のあるネットワークスプーフィングやman-in-the-middle攻撃のリスクを軽減するには、DHCP、TCP/IPDNS、などのプロトコルを実装する無料RTOSライブラリに [True Random Number Generator \(TRNG\)](#) を使用します。詳細については、「[決定的ランダムビットジェネレータを使用した乱数生成の推奨](#)」(SP 800-90A)の「50 ページ」を参照してください。NIST 800-90A

認定ステップ

AWS IoT Device Tester (IDT) を使用して移植された無料RTOSライブラリを検証する

- 無料RTOSライブラリをボードに移植します。手順については、「[無料RTOS移植ガイド](#)」を参照してください。
- テストプロジェクトを作成し、必要なテストを [Free RTOS-Libraries-Integration-Tests](#) GitHub リポジトリから移植します。テストランナータスク [RunQualificationTest](#) を呼び出します。

Note

デベロッパーエクスペリエンスを向上させるには、無料RTOSライブラリを移植し、を使用して対応する個々のテストグループをローカルで実行IDEして統合を検証することをお勧めします。

テストランナータスクは、個別のテストプロジェクト、またはデモアプリケーションプロジェクトで実行されます。

- 認定で使用したすべての依存関係を一覧表示する `manifest.yml` ファイルを作成します。依存関係には、無料RTOSライブラリとテストリポジトリが含まれます。詳細については、「[無料のRTOSマニフェストファイルの手順](#)」を参照してください。

Note

`manifest.yml` はIDT、特定の無料RTOSライブラリバージョンに対する整合性チェックに必要な依存関係を見つけ、テストバイナリを構築、フラッシュ、実行するテストプロジェクトを設定するために使用されます。

IDT は特定のプロジェクト構造を義務付けず、`manifest.yml` ファイルに含まれる参照パスを使用します。

4. Device Advisor を使用して AWS IoT 相互運用性を検証します。

- a. 上記のテストで使用したような無料RTOSライブラリ、移植、統合タスクなど、同じコンポーネントOTAを使用するデモプロジェクトを作成します。

認定には、デモアプリケーションが以下の機能を備えている必要があります。

- トピックMQTTの発行とサブスクライブを実行します。
- OTA 更新を実行します。
- OTA 更新をサポートするブートローダーを作成します。独自のブートローダーまたは [MCUBoot](#) を使用します。 [「Labs-Free RTOS-Plus-MCUBoot」](#) を参照してください。

Note

[無料RTOS GitHub](#) リポジトリには、個々のタスクを示す事前設定された例があります。また、[コアMQTTとタスクの両方を組み込んだ統合コアエージェントデモ](#) もあります。MQTT OTA また、「」の「無料のRTOS IoT IoT 統合機能」を参照してください [認定プロジェクトの例](#)。

- b. AWS IoT Device Tester は [AWS IoT Device Advisor](#) に対してデモを実行します。認定には、以下の Device Advisor のテストケースが必要です。

テストケース

テストケース	テストケース	必須
TLS	TLS 接続	はい
TLS	TLS AWS AWS IoT 暗号スイートのサポート	推奨の 暗号スイート がある場合は「はい」。
TLS	TLS セキュアでないサーバー証明書	はい
TLS	TLS サブジェクトネームサーバー証明書が正しくない	はい
MQTT	MQTT 接続	はい

テストケース	テストケース	必須
MQTT	MQTT ジッター再試行を接続する	Yes、警告なし
MQTT	MQTT サブスクライブ	はい
MQTT	MQTT 公開	はい
MQTT	MQTT ClientPuback Qos1	はい
MQTT	MQTT Ack なし PingResp	はい

5. からテストを実行し AWS IoT Device Tester、テストレポートを生成します。

- IDT テストを設定し、ビルドとフラッシュをボードに自動的に実行します。これを有効にするには、を設定IDTして、userdata.json ファイル内のデバイスのビルドコマンドとフラッシュコマンドを実行する必要があります。「for [IDT FreeRTOS ユーザーガイド](#)」の「[ビルド、フラッシュ、およびテストの設定の設定](#)」を参照してください。
- 接続タイプ、暗号化アルゴリズム、のキープロビジョニング方法など、デバイスでサポートされている機能をdevice.jsonファイルに提供IDTして、実行する適切なテストを決定します。[IDT 「for Free ユーザーガイド」の「でデバイスプールを無料で作成するRTOS」](#)を参照してください。[IDT RTOS](#)
- AWS アカウントを作成して設定IDTし、必要なクラウドリソースを作成します。for Free ユーザーガイドの「[AWS アカウントの作成と設定IDT](#)」を参照して、[必要なクラウドリソースを作成します](#)。[IDT RTOS](#)

提出の準備

1. デバイスで MQTTまたはOTAデモプロジェクトを実行するには、入門ガイドを作成します。手順については、「[デバイスの無料RTOSガイドの作成](#)」を参照してください。
2. 「[無料RTOS移植ガイド](#)」の「[ライブラリの移植](#)」で説明されている [AWS IoT デバイスブートローダーの脅威モデリング](#)」で定義されているリスクを軽減することを検証する脅威モデリングドキュメントを提供します。[OTA](#) このドキュメントは、[APNPartner Central](#) でデバイスを送信するときに、サポートアセットとしてアップロードする必要があります。
3. コードダウンロード用のパブリックリポジトリを用意します。企業 GitHub リポジトリリンクを提供することをお勧めします。

認定の提出

- IDT テストレポート。
- AWS IoT Device Advisor テストレポート。
- 脅威モデリングドキュメント。
- GitHub ダウンロード用のソースコードを持つ リポジトリ。

ボードの入RTOS門ガイドの作成

無料の資格を得るにはRTOS、ボードの無料RTOS入門ガイドを作成する必要があります。このガイドでは、無料RTOSデバイス用のアプリケーションを開発するためのハードウェアと開発環境を設定し、デバイスで作成したデモアプリケーションを構築、実行、フラッシュする方法について説明します。

このガイドは、公開ウェブサイトでお客様に利用可能である必要があります。ガイドURLのは、AWS パートナーデバイスカタログに認定ボードを一覧表示するための要件です。

ガイドには次の手順を含める必要があります。

- デバイスのハードウェアのセットアップ。
- 開発環境のセットアップ。
- デモプロジェクトの構築と実行。
- デバッグ。
- トラブルシューティング。

また、ガイドには次のものを含めることをお勧めします。

- MCU データシートへのリンク。
- プリント回路基板 (PCB) の回路図。
- コンソールログのデフォルトのイメージ起動。

Important

オペレーティングシステムによって手順が異なる場合は、Windows、Linux、macOS の各オペレーティングシステム用の手順を提供する必要があります。

ボードにガイドを書き込むときは、[入門ガイドテンプレート](#)に従います。その他の認定ボードの公開ガイドの例は、[無料RTOSユーザーガイド](#)を参照してください。入門ガイドのテンプレートは、[APN Partner Central](#)で入手できます。

入門ガイドテンプレート

ボードの簡単な説明を提供する概要を書き込みます。このセクションには、以下の質問に対する回答があります。

- デモアプリケーションの実行に必要なハードウェアはどれですか？

詳細情報を確認できるよう、企業ウェブサイトのページへのリンクを提供します。

- ボードのアプリケーション開発でサポートされているのIDEsはどれですか？

IDE ユーザーガイドとダウンロードページへのリンクを提供します。

- 開発には、どのツールチェーンやその他のユーティリティが必要ですか？

ユーザーガイドとダウンロードページへのリンクを提供します。

- ボードで無料RTOS使用を開始するためのその他の前提条件はありますか？

購入ページ、ユーザーガイド、ダウンロードページへのリンクを提供します。

ハードウェアの設定

このセクションでは、プラットフォームのハードウェアをセットアップする手順について説明します。ハードウェアのセットアップ用に、ユーザーガイドやその他のドキュメントへのリンクを提供していることを確認してください。

これらの手順には、以下のものが含まれます。

- ジャンパーの設定。
- ドライバーのダウンロードとインストール。

サポートされているドライバーのバージョンについては、ダウンロードページやその他のドキュメントへのリンクを提供します。

- コンピュータへのボードの接続。
- ハードウェアを設定するために必要なその他の手順。

開発環境のセットアップ

このセクションでは、プラットフォームのサポートされている開発環境のセットアップ方法を説明します。各アイテム用に、ダウンロードページ、ユーザーガイド、その他のドキュメントへのリンクを提供していることを確認してください。

これらの手順には、以下のものが含まれます。

- シリアル接続の確立。
- ツールチェーンのダウンロードとインストール。
- サポートされている をダウンロードしてインストールしますIDE。
- デバイス用のアプリケーションを開発およびデバッグするために必要なその他のソフトウェア。

デモアプリケーションのビルドと実行

デモアプリケーションのビルド

このセクションでは、サポートされている またはサポートされているコマンドラインツールを使用してIDE、提供されるデモアプリケーションを構築するための手順を提供します。

デモアプリケーションプロジェクトの実行

このセクションでは、ボードで無料のRTOSデモコードをフラッシュして実行する手順を説明します。

デバッグ

このセクションでは、オンボードまたは外部デバッガーを使用するための手順を説明します。

トラブルシューティング

このセクションでは、一般的または潜在的な問題を解決するためのトラブルシューティングのヒントを提供します。

入門ガイドテンプレートは、こちらの[APNパートナーポータル](#)からダウンロードできます。サインインするには認証情報が必要です。

無料のRTOSマニフェストファイルの手順

マニフェストファイルは、が使用しているバージョンとライブラリを識別 AWS IoT Device Tester するために必要です。これにより、お客様はバージョン、ライブラリ、依存関係、メタデータを把握しやすくなります。

マニフェストファイルは、以下の要件を満たしている必要があります。

- ファイル名は、manifest.yml とする必要があります。
- ライブラリまたはパッケージのベースフォルダにある必要があります。
- YAML 形式であり、[YAML1.2 仕様](#) に従う必要があります。

パラメータの順番は任意ですが、読みやすさを考慮し、以下の順番にすることをお勧めします。お客様がパッケージを使用する際に役立つコメントをファイルに追加します。

ファイルパス

パッケージまたはライブラリのルートにあります。各パッケージに含まれるマニフェストファイルは 1 つのみです。取り込む依存関係に、独自のマニフェストファイルが含まれている場合があります。

パラメータ

name

パッケージの名前。スペースはすべてアンダースコア (_) に置き換える必要があります。例えば、My project name - 2020 は My_project_name_-_2020 に変更する必要があります。

- 型: 文字列
- required: true
- minLength: 1
- maxLength: 40

version

パッケージのバージョン。リリースバージョンまたはバージョンタグを使用できます。

- 型: 文字列
- required: true

- minLength: 1
- maxLength: 30

説明

人が読み取れるパッケージの説明。パッケージに関する説明とその提供内容を明確に記述する必要があります。

- 型: 文字列
- required: true
- minLength: 30
- maxLength: 255

dependencies

ユーザーがこのパッケージを正常に構築するために必要な一次レベルの依存関係の一覧です。一覧にある依存関係はすべて Git、Subversion、または Mercurial のソースコードのホストで取得できます。Git、SVG または hg では利用できない依存関係を含めないでください。また、テスト、ドキュメント生成、または開発に使用する依存関係も含めないでください。優れたエクスペリエンスを促進するために、制限付きの依存関係やプライベートの依存関係はリストに含めないことをお勧めします。

- type: array
- 必須: false
- minLength: 0

dependencies[].name

依存関係のパッケージ名。依存関係の name パラメータのパッケージ名と一致させる必要があります。

- 型: 文字列
- required: true
- minLength: 1
- maxLength: 40

dependencies[].version

依存関係のバージョン。リリースバージョンまたはバージョンタグを使用できます。パッケージ自体に依存関係が含まれている場合、このバージョンと依存関係に含まれるマニフェストファイルが一致する必要があります。

- 型: 文字列
- required: true
- minLength: 1
- maxLength: 30

dependencies[].repository

依存ソースコードの場所を示します。

- type: dictionary
- required: true

dependencies[].repository.type

リポジトリのタイプ。

- 型: 文字列
- required: true
- enum: [git, svn, hg]

dependencies[].repository.url

リポジトリURLの場所。これは、URLプロトコルプレフィックス (例: `https://github.com/ACCOUNT_NAME/REPO_NAME`)。

- 型: 文字列
- required: true

dependencies[].repository.path

プロジェクトワークスペースからの依存関係の相対パス。

- 型: 文字列
- required: true

dependencies[].repository.branch

使用される依存関係のブランチ。パッケージがライブラリのリリースブランチを使用する場合は、このパラメータを含めないようにし、マニフェストの長さを最小限に抑えてください。

- 型: 文字列
- required: false

license

ライブラリのSPDXライセンス識別子。詳細な一覧については、<https://spdx.org/licenses/> を参照してください。リポジトリのルートに含まれる LICENSE ファイルが存在する場合は、それと一致します。

- 型: 文字列
- required: true

manifest.yml の例

```
---
# This is an example of the manifest file that is included at the root of all FreeRTOS
  GitHub repositories.

name : "Project_Name"
version: "202012.00-LTS"
description: "Clear concise description of this project."

dependencies:
  - name: "dependency_1"
    version: "v1.0.0"
    repository:
      type: "git"
      url: "https://github.com/account/dependency_1"
      path: "/relative/path/from/project/root/to/dependency_1"
      branch: "1.x"
  - name: "dependency_2"
    version: "v1.0.1_LTS"
    repository:
      type: "git"
      url: "https://github.com/account/dependency_1"
      path: "/relative/path/from/project/root/to/dependency_2"

license: "MIT"
```

ドキュメント履歴

次の表は、「FreeRTOS 資格ガイド」と「FreeRTOS 移植ガイド」のドキュメント履歴をまとめたものです。

日付	ドキュメントバージョン	変更履歴	FreeRTOS バージョン
2022 年 5 月	FreeRTOS 移植ガイド FreeRTOS 認定ガイド	<ul style="list-style-type: none"> FreeRTOS 長期サポート (LTS) ライブラリに基づいて、既存のテストの更新、新しいテストの追加、冗長テストの除去が行われました。詳細については、GitHub の FreeRTOS ライブラリ統合テストの「202205.00」を参照してください。 「FreeRTOS 移植フローチャート」を更新しました。 「Porting the Network Transport Interface」を新たに追加しました。 「Porting the AWS IoT over-the-air (OTA) update library」が認定に必要になりました。 	202012.04-LTS 202112.00

日付	ドキュメントバージョン	変更履歴	FreeRTOS バージョン
		<ul style="list-style-type: none"> • Wi-Fi と TLS 抽象化移植ガイドは不要になったため削除されました。 • FreeRTOS 認定に関するその他の最新情報については、「Latest changes」を参照してください。 	
2021 年 7 月	202107.00 (移植ガイド) 202107.00 (資格ガイド)	<ul style="list-style-type: none"> • リリース 202107.00 • 「Porting the AWS IoT over-the-air (OTA) update library」を変更 • 「OTA アプリケーションのバージョン 1 からバージョン 3 への移行」を追加 • 「OTA PAL 移植のバージョン 1 からバージョン 3 への移行」を追加 	202107.00

日付	ドキュメントバージョン	変更履歴	FreeRTOS バージョン
2020年12月	202012.00 (移植ガイド) 202012.00 (資格ガイド)	<ul style="list-style-type: none"> リリース 202012.00 「coreHTTP ライブラリの設定」を追加 「セルラーインターフェイスライブラリの移植」を追加 	202012.00
2020年11月	202011.00 (移植ガイド) 202011.00 (資格ガイド)	<ul style="list-style-type: none"> リリース 202011.00 「coreMQTT ライブラリの設定」を追加 	202011.00
2020年7月	202007.00 (移植ガイド) 202007.00 (資格ガイド)	<ul style="list-style-type: none"> リリース 202007.00 	202007.00
2020年2月18日	202002.00 (移植ガイド) 202002.00 (認定ガイド)	<ul style="list-style-type: none"> リリース 202002.00 Amazon FreeRTOS を FreeRTOS に変更 	202002.00
2019年12月17日	201912.00 (移植ガイド) 201912.00 (認定ガイド)	<ul style="list-style-type: none"> リリース 201912.00 共通 I/O ライブラリの移植が追加されました。 	201912.00

日付	ドキュメントバージョン	変更履歴	FreeRTOS バージョン
2019年10月29日	201910.00 (移植ガイド) 201910.00 (認定ガイド)	<ul style="list-style-type: none"> リリース 201910.00 乱数生成器移植の最新情報。 	201910.00
2019年8月26日	201908.00 (移植ガイド) 201908.00 (認定ガイド)	<ul style="list-style-type: none"> リリース 201908.00 テスト用の HTTPS クライアントライブラリの設定を追加 「corePKCS11 ライブラリの移植」を更新 	201908.00
2019年6月17日	201906.00 (移植ガイド) 201906.00 (認定ガイド)	<ul style="list-style-type: none"> リリース 201906.00 更新されたディレクトリ構造化 	201906.00 メジャー
2019年5月21日	1.4.8 (移植ガイド) 1.4.8 (認定ガイド)	<ul style="list-style-type: none"> 移植ドキュメントを FreeRTOS 移植ガイド に移動 資格ドキュメントを FreeRTOS 資格ガイド に移動 	1.4.8
2019年2月25日	1.1.6	<ul style="list-style-type: none"> 入門ガイドのテンプレートの付録からダウンロードと設定手順を削除 (84 ページ) 	1.4.5 1.4.6 1.4.7

日付	ドキュメントバージョン	変更履歴	FreeRTOS バージョン
2018 年 12 月 27 日	1.1.5	<ul style="list-style-type: none"> 資格チェックリストの付録を CMake 要件により更新 (70 ページ) 	1.4.5 1.4.6
2018 年 12 月 12 日	1.1.4	<ul style="list-style-type: none"> TCP/IP の移植の付録に lwIP 移植手順を追加 (31 ページ) 	1.4.5
2018 年 11 月 26 日	1.1.3	<ul style="list-style-type: none"> Bluetooth Low Energy 移植の付録を追加 (52 ページ) ドキュメント全体で FreeRTOS のテスト情報に AWS IoT Device Tester を追加 FreeRTOS コンソールの付録に、出品に関する情報への CMake リンクを追加 (85 ページ) 	1.4.4

日付	ドキュメントバージョン	変更履歴	FreeRTOS バージョン
2018 年 11 月 7 日	1.1.2	<ul style="list-style-type: none">• PKCS#11 移植の付録で PKCS#11 PAL インターフェイスの移植手順を更新 (38 ページ)• CertificateConfigurator.html へのパスを更新 (76 ページ)• 入門ガイドのテンプレートの付録を更新 (80 ページ)	1.4.3

日付	ドキュメントバージョン	変更履歴	FreeRTOS バージョン
2018 年 10 月 8 日	1.1.1	<ul style="list-style-type: none"> • 新しい「Required for AFQP」列をaws_test_runner_config.h テスト設定テーブルに追加 (16 ページ) • 「Create the Test Project」セクションの Unity モジュールディレクトリパスを更新 (14 ページ) • 「Recommended Porting Order」グラフを更新 (22 ページ) • TLS 付録、Test Setup のクライアント証明書とキー変数名を更新 (40 ページ) • Secure Sockets の移植の付録、Test Setup (34 ページ)、TLS の移植の付録、Test Setup (40 ページ)、および TLS Server Setup の付録 (57 ページ) のファイルパスを変更 	1.4.2

日付	ドキュメントバージョン	変更履歴	FreeRTOS バージョン
2018 年 8 月 27 日	1.1.0	<ul style="list-style-type: none"> • OTA 更新の移植の付録を追加 (47 ページ) • ブートローダー移植の付録を追加 (51 ページ) 	1.4.0 1.4.1
2018 年 8 月 9 日	1.0.1	<ul style="list-style-type: none"> • 「Recommended Porting Order」グラフを更新 (22 ページ) • PKCS#11 の移植の付録を更新 (36 ページ) • TLS の移植の付録、Test Setup (40 ページ)、および TLS Server Setup の付録、ステップ 9 (51 ページ) のファイルパスを変更 • MQTT の移植の付録、前提条件のハイパーリンクを修正 (45 ページ) • BYOC の作成手順の付録にある例に AWS CLI 設定手順を追加 (57 ページ) 	1.3.1 1.3.2
2018 年 7 月 31 日	1.0.0	FreeRTOS 資格認定プログラムガイドの初期バージョン	1.3.0

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。